



黒井登起雄

部に分割して創出した継続支部です*3。『支部総会』が活動の計画・状況を会員に直接的に報告・承認を

【プロフィール】 東洋大学校友会の『埼玉県支部』は、昭和4(1929)年4月に設立され、平成21(2009)年に「支部創立80周年記念式典」を行った歴史ある支部です*1。表1に歴代支部長一覧を示しました。『埼玉県東部支部』は、平成16(2004)年5月に『埼玉県支部』を埼玉県の東西2支

『支部会報』の発行目的とその歴史

副支部長 黒井登起雄 (昭和46年院修土木)

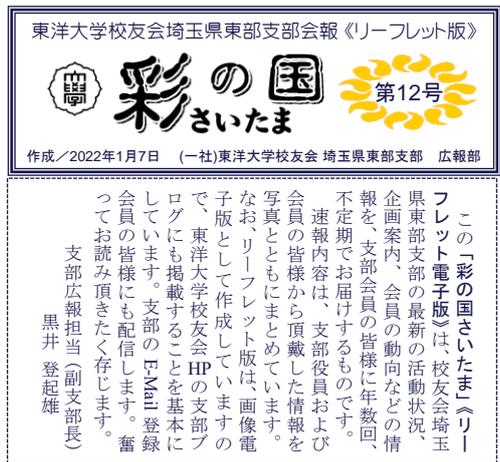
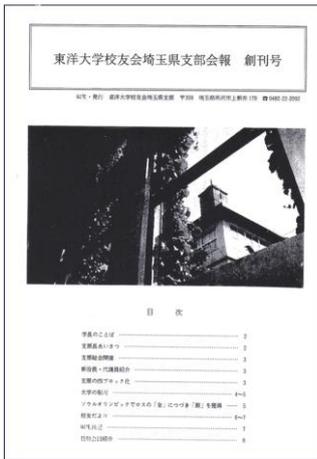


表-1 校友会『埼玉県支部』歴代支部長一覧*2

Table with 3 columns: 氏名(卒業年・学科), 就任期間. Lists 12 generations of branch chiefs from 1929 to 2021.

注) 校友会『埼玉県支部』は、平成16(2004)年5月に分割を承認し、『埼玉県東部支部』と『埼玉県西部支部』の2支部を設立



①会報創刊号*2

昭和63(1988)年発行

②会報第11号

平成15(2003)年5月発行

写真-1 校友会『埼玉県支部会報』の表紙

*1 東洋大学校友会一〇〇周年記念誌(東洋大学校友会創立一〇〇周年記念委員会記念誌部会)・平成6(1996)年11月22日発行
*2 東洋大学校友会埼玉県支部さいたま70年誌(創立70周年誌編集委員会)・平成11(1996)年11月発行
*3 東洋大学校友会埼玉県東部・西部支部80周年記念誌・平成21(2009)年11月発行

私は、平成9(1997)年頃からの支部活動への参加ですので、約24年間の支部活動の記憶しかありません。多くの埼玉県支部の活動の記録は、校友会記念誌や埼玉県支部の周年記念誌を参考にさせて頂きました*1。記述の間違いや誤解が含まれている場合は、ご了承ください。



写真-2 校友会『埼玉県支部会報』の記事記載例(第9号、1998.4.12)

Table with 3 columns: 支部長/卒年・学科, 発行した支部会報. Lists branch chiefs and the issues they published.

表-2 校友会埼玉県の『支部会報』の発行年度

は、鹿島幾太郎(昭和20年国漢)支部長、編集担当、坂井勝理事(昭和37年経済)のもと、B5判モノクロ印刷によって作成され(写真1参照)、支部会員の掘り起しに活用されました*2。内容は、会員の寄稿、支部総会の開催報告、大学の現況報告、校友だよりなどで、現在の支部会報とほとんど同じです。第6号以降は、広報部長の池田正男理事(昭和35年法律)が編

【埼玉県支部】の会報発行) 校友会埼玉県支部は、表1に示す創立以来の歴代支部長のもとで戦中戦後の試練を乗り越えて、昭和39(1964)年頃から「全国支部からの代議員選出」「校友会組織の全国への拡大」「支部創立35周年記念」「支部創立50周年記念誌の発行」などの活動が粛々と積み重ねられています。しかし、校友会本部業務と、支部活動が並行して行われていた模様で、昭和63(1988)年頃に、最大の校友会員を抱える支部であるとの意識から、「支部活性化」の意見が多く出され、第一回の「校友の集い」が行われています。また、「会員の交流を深める」「組織の強化・拡大を図る」ことを目的に『支部会報』が発刊されました(表2)。創刊号



①会報創刊号表紙
平成16(2004)年7月発行



②会報第5号表紙
平成21(2009)年5月発行



③会報第6号表紙
平成22(2005)年10月発行



④会報第10号表紙
平成26(2014)年10月発行



⑤会報第6号 (pp.7)



⑥会報第6号 (pp.8)

写真-3 校友会『埼玉県東部支部会報』

支部会員の意見集約および会員同士の意見交換は、非常に重要です。これまでの発行『支部会報』の目的・作成情報を整理しましたが、さらに、最近のIT情報ツールを活用した多様な「情報交換システム」(Facebookやそのグループなど)を若手校友の皆様が中心で構築されますことを望みます。

【エピソード】

支部会員の意見集約および会員同士の意見交換は、非常に重要です。これまでの発行『支部会報』の目的・作成情報を整理しましたが、さらに、最近のIT情報ツールを活用した多様な「情報交換システム」(Facebookやそのグループなど)を若手校友の皆様が中心で構築されますことを望みます。

【埼玉県東部支部の『支部会報』の会報発行】

埼玉県東部支部の『支部会報』は、初代の朝川仁支部長(昭和36年院修・社会)によって平成16(2004)年に創刊され(写真・3①)、第2代の清宮邦雄支部長、第3代の中里繁夫支部長へと引き継

集し(写真・1参照)、第11号(高松清實支部長)まで発行されました。なお、第11号の編集は、広報部長の栗沢順吉理事(昭和34年哲学)が担当しています。第6号以降の『支部会報』は、「支部校友の集い」における写真などを配置し(写真・2参照)、支部会員の参加拡大を会員に伝える意図を盛り込んだ構成になっています。

がれ、令和3(2021)年に、第17号が発行されています。創刊号および第2号の編集は、深利勝之理事(昭和38年法律)の担当でしたが、第3号から第5号は、支部長のもとで編集されています(広報部)。これまでの『支部会報』は、A4版モノクロ印刷で作成され、埼玉県支部時代における写真などを配置し、「支部校友の集い」における写真などを配置し(写真・3①)に、支部会員の参加拡大を会員に伝える意図の構成で編集されています。第6号以降の『支部会報』(清宮邦雄支部長&中里繁夫支部長)は、黒井登起雄理事・副支部長(広報担当)が編集しています。支部会報の作成に当たり、平成20(2008)年頃の朝川元支部長からの要望

は、「支部会報」において「写真をできるだけ多くする」「会報をカラー印刷版にする」などでした。当時は、マイクロソフトのOSが格段に進化して、マイクロソフト Publisher、Wordなどの文章作成ソフトの更新も早く、デジタル写真の解像度の向上も著しく、Power pointなどで写真画像の編集・変換が容易にできるようになりました。したがって、PCによるフルカラー印刷版の『支部会報』が Word 文書ソフトで作成できることから、私が第6号から17号の編集・作成を引き受けました(写真・3③④⑤⑥参照)。発行に際しては、「支部会報(第〇号)」の構成と割付「原稿の執筆のお願い(〇依頼)」等の文書を作成しました(支部ブ

ログにも掲載)。また、『支部会報』は、編集した作成原稿の PDF ファイルを印刷所に Email 送信して印刷版に仕上げる方式で、支部会員の皆様に届けています。

【IT時代における支部会報について】

『支部会報』は、一年間の校友会支部活動(総会・各種校友の集い)や、支部校友の近況、校友会本部の活動、大学の動向などを会員の皆様に年一回届ける機関紙です。多くの支部会員の意見の交換を「校友の集い」「校友大会」「ホームカミングデー」等では、時間が足りなく、また、年一回の『支部会報』では、情報交換に時間がかかります(古い情報になりかねません)。IT時代における会員への支部活動の情報発信は、「即時性」が最も重要になります。そこで、私は、令和2(2020)年8月に、年間4〜5回発行で、二頁構成の「彩の国さいたま」(リーフレット電子版)を考え、編集を始めた。これらは、校友会HPの「支部ブログ」を活用して、会員の皆様に直ぐに配信され、閲覧できます(支部ブログに掲載)。